



(2) 農業生産性の向上

本地区を代表する水稲、畑作物の平成15年農業算出額は、米が12億1千万円、野菜13億1千万円で、平成3年と比較すると米は1.1倍、野菜は1.2倍に増加している。

(3) 災害に対する学習機会の創出

本地区は、過去の災害に対する意識は根強いものの、近年ではその意識が薄らいできている。北川辺町では、小学校の総合学習として北川辺町排水機場の見学やパンフレットの配布等によって排水対策の啓発に取り組んでいる。

また、排水機場周辺では水辺環境整備事業が実施され、憩いの場の創出の一翼を担っており、北川辺町排水機場に対する住民意識の向上に寄与している。

ウ 事業により整備された施設の管理状況

県営造成施設の北川辺町排水機場は、北川辺町が運用及び保守点検の維持管理を行っている。しかし、近年では水路へのゴミ等の不法投棄が目立っており、その処理に係る費用が増加している。

エ 事業実施による環境の変化

本事業によって湛水被害防止が図られたことにより、農作物の作付け自由度が向上する等の農業生産環境が改善された。また、住宅、道路等の浸水や冠水被害が軽減され、地域住民が安心して安全に生活できる住居環境が創出された。

オ 社会経済情勢の変化

(1) 総人口

総人口は、平成3年(事業実施前)の11,795人から約15%増加し、平成17年では、13,611人となっており、県全体の0.19%を占めている。

(2) 土地利用面積

平成17年の土地利用面積は、農地面積1,000ヘクタール、宅地面積252ヘクタールとなっており、平成3年から農地面積は6%減少したのに対し、宅地面積は17%増加している。

(3) 農業構造の動向

平成12年の農家数は、774戸で平成2年の838戸から8%減少した。また、農業就業人口は、平成2年の4,131人から平成12年では3,539人と14%減少した。

カ 今後の課題

本事業で建設した土地改良施設の北川辺町排水機場は、致命的な損傷が起こる前に適切な機能診断と予防保全を実施することで、更新時期の集中を防ぐとともに維持補修費の抑制等の一時的な増嵩の解消を図ることが出来る。

このことから、今後とも県・北川辺町の連携のもと、施設の機能診断を適切に行い、点検・整備・補修等の予防保全対策等を講ずることで、施設の長寿命化を図るとともに、農家の高齢化が進む中で、排水路等の洪水防止など地域住民も享受する多面的機能を適切かつ持続的に発揮できるよう、住民なども参画した新たな維持管理の仕組みを構築するなど、施設の適切で効率的な維持管理手法の確立が必要である。

事後評価結果

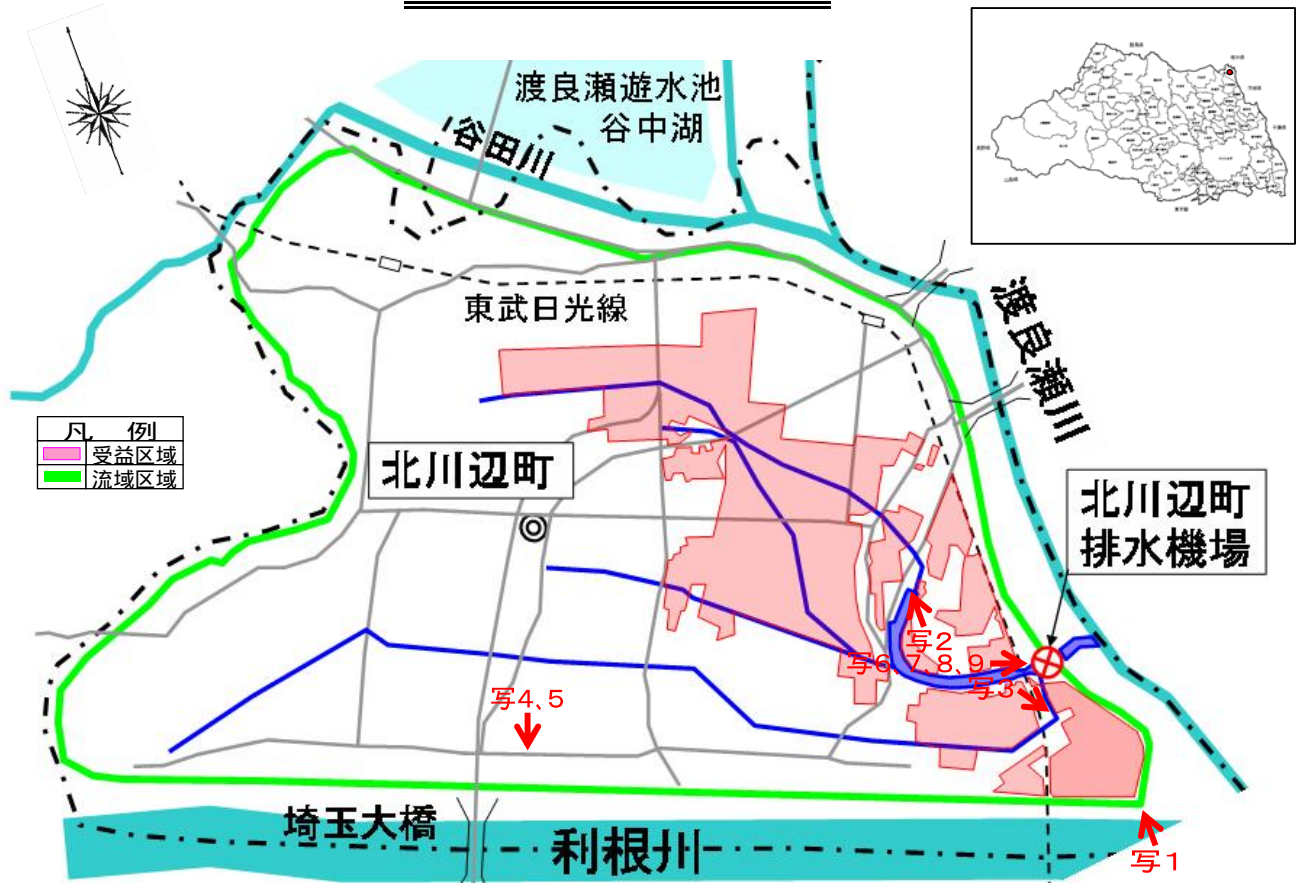
・本事業により排水機場が改修されたことから、農作物、農用地及び農業用施設の湛水被害が大幅に軽減されただけでなく、住宅への浸水被害も大幅に軽減された。  
・本事業実施後、排水状況が改善されたため、事業計画時点と事後評価時点で比較して作物(トマト、キュウリ、ナス等)の収穫量が増加した。  
・地元の北川辺町では、排水機場が改修されたことを契機に、小学校の総合学習として排水機場の見学やパンフレットの配布等を実施し、排水対策の啓発に取り組むようになった。

第三者の意見

(注1)「事後評価結果」欄は、項目の内容を総括して記入する。

(注2)「第三者の意見」欄は、第三者の意見のうち特記すべき内容について記入する。

# 北川辺地区位置図



1. 上空から見た北川辺地区の様子



【写真1】



## 2. 大雨による湛水被害の状況（排水機場整備前）



【写真2】排水機場整備前



【写真3】排水機場整備後

## 3. 排水ポンプ運転の効果



【写真4】大雨の直後の様子（事業実施前）



【写真5】大雨の直後の様子（事業実施後）

## 4. 新旧排水機場の様子



【写真6】旧排水機場（事業実施前）



【写真7】新排水機場（事業実施前）



【写真8】排水機場監視操作室（事業実施後）



【写真9】排水機場エンジン室（事業実施後）